

令和５年３月９日開催の企画研修『実践に活かせる！スーパービジョン（応用編）』で行いましたWebアンケートにてご質問をいただきましたので回答いたします。

*質問部分については一部抜粋して掲載しております。

Q1.

一人ケアマネをしています。同じように一人ケアマネをしている方から電話で相談されることがありますが、スーパービジョンを行いますと言ってから記録等を残したらいいのでしょうか。

A1.（講師回答）

・基礎編でお話をしたことなのですが、「バイザーとバイジーがお互いに何をするのかを了解しているのか」＝「契約」が準備段階として大切です。

したがって、お互いに了解しているかどうかが重要となりますので、個別スーパービジョンの一定プロセスをたどり、逐語録に進むことになります。

・電話相談の内容は、個別事例の相談なのか、ケアマネジャー自身についての相談なのかを考える必要があります。

Q2.

最後にお話しされた初回面接の思いの出版先など教えて頂けるとありがたいです。

A2.（講師回答）

野村豊子先生『ソーシャルワーク・入門』（２０００）出版社 有斐閣 から引用しました。

Q3.

バイジーが、何時でも気楽に相談出来るように社内人間関係構築には努めておりますが、バイジーがスーパービジョンのことをしっかりと理解できるようになってから実施することが大切でしょうか。

A3.（講師回答）

主任介護支援専門員研修の際にスーパービジョンについて深く学ぶことになります。

バイジーにスーパービジョンの理解を求めるのは難しいでしょうし、まずは、バイザーが理解をしてスーパービジョンについて説明ができることが重要かと考えています。

又、スーパービジョンは、「バイザーとバイジーがお互いに何をするのかを了解しているのか」＝契約が重要ですのでこの辺りの説明は必要でしょう。

Q4.

バイザーとしての心構えを教えてください。

A4.（講師回答）

- ・バイザーの経験をそのまま伝達しない。

（バイジーの後ろにご利用者がいます。自分の担当ケースではないのです。）

- ・アドバイスや指示ではバイジーの気づきは生まれにくい事を意識する。

- ・バイジーが沈黙した時こそ「待つ」姿勢でいる事。

「沈黙」をも聴く姿勢。